

平成 2 6 年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：イネ・フタオビコヤガ（イネアオムシ）(No. 1)

平成 2 6 年 7 月 2 3 日
鳥取県病害虫防除所

1 発生状況

- (1) 7 月第 3 半旬までのフェロモントラップ総誘殺数は、中部（琴浦町）では平年よりやや多く、東部（鳥取市、岩美町）および西部（日吉津村）では平年よりやや少ない（図 1 ）。
- (2) 7 月 1 8 日現在、東部および西部では、幼虫の発生量は平年よりやや少ない。一方、中部の発生量は平年並であるが、本種に対して効果が高い育苗箱施用剤（ルーチンアドスピノ箱粒剤、ツインターボフェルテラ箱粒剤、D r . オリゼフェルテラ粒剤など）を使用していないほ場、葉色が濃く風通しが悪いほ場の一部で多発ほ場が認められている。
- (3) 7 月 1 8 日現在、ほ場での発生の主体は若～老齢幼虫である。

2 防除上注意すべき事項

- (1) 水田における幼虫の食害は 8 月中旬頃まで続くので、本種が発生しやすいほ場（風通しの悪いほ場、葉色の濃いほ場、早生品種の遅植えほ場、中生品種栽培ほ場、中山間地域のほ場など）を中心に、今後の発生状況に十分注意する必要がある。
- (2) 本種が発生しやすいほ場では、穂ばらみ期に粉剤、水和剤などで防除を行う。なお、この時期は、穂いもち、紋枯病などの防除時期となるので、フタオビコヤガにも登録のある殺虫殺菌混合粉剤による同時防除が有効である。
- (3) 穂ばらみ期防除の 1 週間前までに以下の要防除水準に達した場合は、直ちに粉剤、水和剤などで防除を行う。
 - 7 月中旬～穂ばらみ期防除の 1 週間前までの要防除水準
 - 下記の ～ の条件をすべて満たす場合
 - 発生の主体が 1 . 2 cm 以上の幼虫
 - 被害株率 9 0 % 以上
 - 食害葉面積率 1 0 ～ 2 0 % 以上

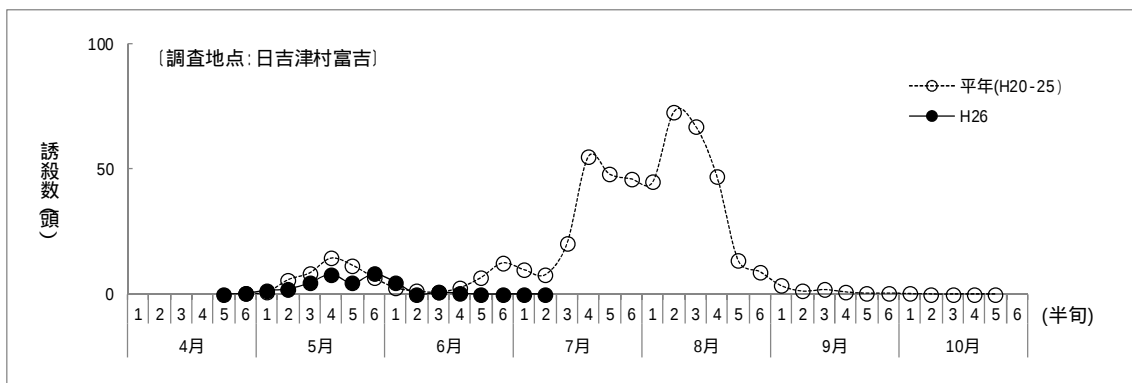
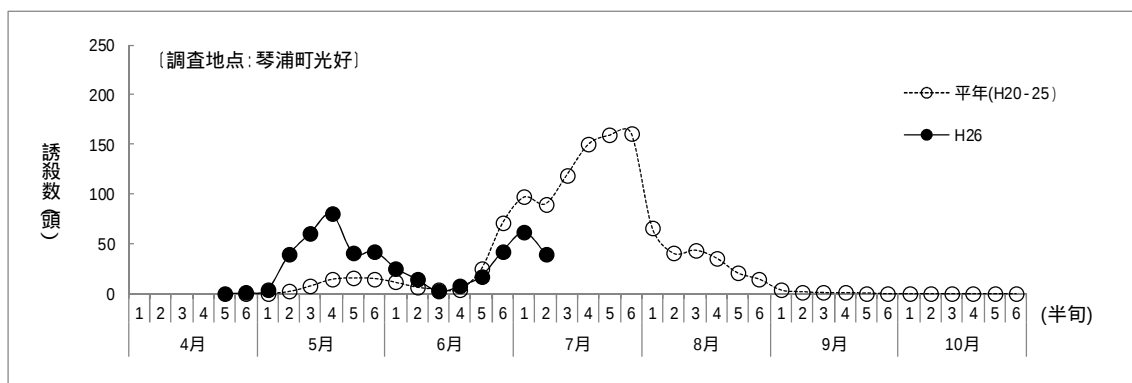
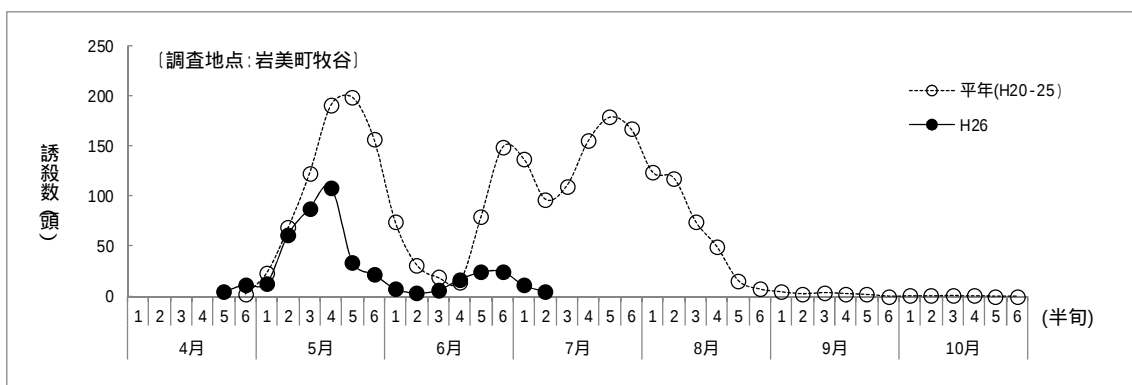
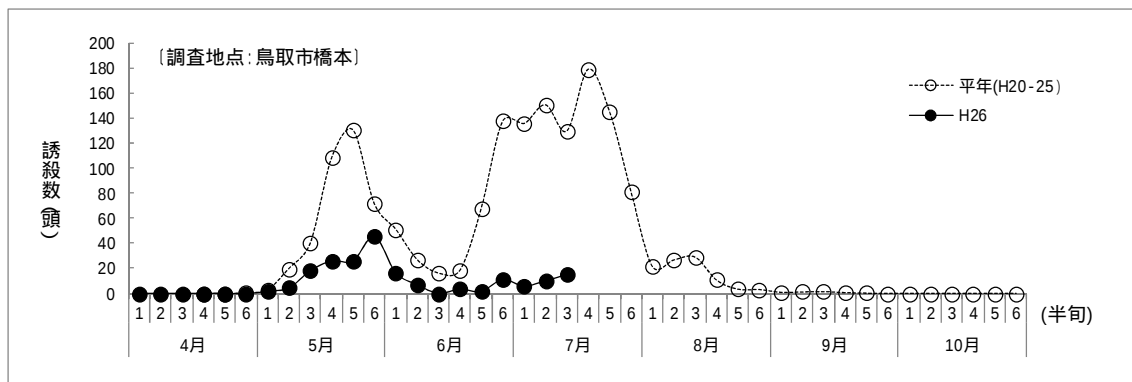


図1 フェロモントラップにおけるフトオビコヤガ雄成虫の誘殺消長(各地区まとめ)